

無いけど、お前が此前、シヨム無い安物買ふた罰で、年齢甲斐も無い怪つ態な病氣貰つて来て、醫者に掛る錢は無し、と云ふて放つといなら鼻が無い様に成つて仕舞ふワ、さればと云ふて町内の人にそんな話も出けへんわなア。難儀してるちウのを聽いて、病ひの根の絶えるまで、道修町三界からワザ／＼薬を取り寄せて、誰にも知れん様にツツと服まして遣たん。あら誰やつたいな『ワア辛いな……』イエもう、貴方はんの事なら、どんな事でも諾きはしますねが……ヒヨツと知れたら『心配しいな。知れる様な不細工な事しやへん。俺しがスツと降りるなり、お前がスツと梯子を持て去ぬのや。知れる筈があるかいナ。俺しや又直きに歸て来るのや、歸りにはお前に知らすわなア。お前が梯子をチョツと掛るワ、俺しがスツと昇るワ。梯子をヒヨイと擔げんかい。夫れで仕舞ひや。左様やろがナ、何心配してるのや、なア市助、是が旨い事往たらナ、もう先途お前が慾しがつてた、あの貧人も遣るで別にお禮が一兩、どうや。嫌やなら拘めへん』ワア辛いな。……ウーム辛いナ……『阿呆やなアお前。こんなボロい事逃がしたらアケへんで。ナ承知しとき、サア手附や、今是れ一步遣る』ヤ宜しおます。額の顔拜んだらモウ斷れまへんワ……イヨ一歩金でやすか是れが……ビカーと光つておますなア。大きに……あかん。矢つ張り狸や。頂いたら額が無い様に成つた。ア怖わ『何してるのや。餘り頂き過ぎるさかい背ろへ落ちたのやがナ』『あゝホンに落ちてました。そやけど頂かんならん物だすな。一步の額が二つに成てます』充分見い。一つは茶碗の破片や』『ア、左様か』『慌て者やなア

……そんなら頼むで、……ヘエお父ツあん、少々お通しを』コレ少々お通しや無い、何時まで手水へ這入てるのぢやいナ。早ふ昇て寝て仕舞ひなされ』お寝み』二階へ昇りましたが、入替て降りて來たのが次男の彦三郎さん『何處へ往くのぢや』ヘエ。鳥渡お手水へ……『早ふ往て早ふ寝よ……』『お寝み』跡へ降りて來ましたのが弟の吉松さん『コラ親爺、チョット退け』コレ。そら何と云ふ事を云ふのぢや、親を捉まえてコラ親爺なんて。何處へ往きなさる』せんちへ往くのんぢやい。疑ふのんなら隨いて來い。へ、ンぢや……サア往て來たつた。昇て寝てこましたるさかい、喜びやがれ。何ちウ顔さらしてんネ阿呆ん陀羅。鼻糞程の金持ちやがつて、子が遣えへんか思ふて、ビク／＼さらしてケツかる、此世へ金の番に生れて來やがつてザマ見され。サア退け／＼。テトロシヤン／＼の、ナンダメコヒヨイ／＼……(二階へ昇る)……笹屋の佐助さんでサ、サのサツサで、北國屋の庄やんでキタシヨウ……イと……オイ兄貴。作兄』ア、吉やん、お前未だ寝てやへんのか。早ふ寝んかいナ『寝んかいな云ふたかて、赤子やあるまいし、アカの宵から眠られるかいナ。併し内の親爺は何とした奴やろ、人生五十年と云ふのに、彼奴は六十を遠に過ぎてスカ見たいな顔してよる。ヒヨツとしたら死ぬのん忘れてよるのと違ふか。持つて死にも出けん錢を、先繰り増やして喜んでケツかる。因果な奴やで、チツト減らして罪亡ぼしをさしたらと云ふ、結構な息子を二階へ押込めやがつて、仕舞に罰が當るぞホシマに……。アア仕様が無いなア、どや。八八一年引かふか』俺しや、そんな事知らん』知らんの